

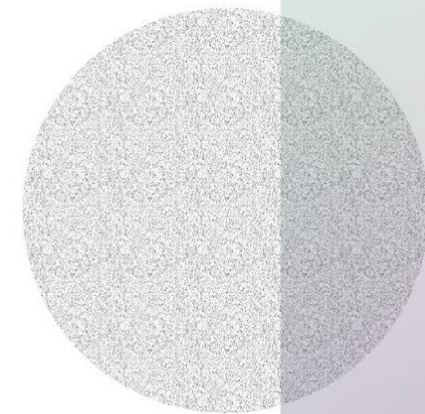
次に何をすべきかへの示唆： コロナ収束後の働く環境とは



The Post-COVID Workplace

目次

1. 未知なるものへの準備
2. 最初のステージに求められる要素は
3. デザイン考察とヒント
4. フロアプランに関する考察
5. デザイン戦略
 - ・ 上下昇降デスク及びベンチ
 - ・ パネル付きデスク
 - ・ 付属的空間



1.未知なるものへの準備：安全第一

オフィスに戻るため、慎重にかつ責任感をもって多々判断しなくてはなりません。
従業員の安全性及びウェルビーイングは最重要な項目です。
従業員は安全を確保出来ると同時に、“安全だと実際に感じられる”事が大事です。

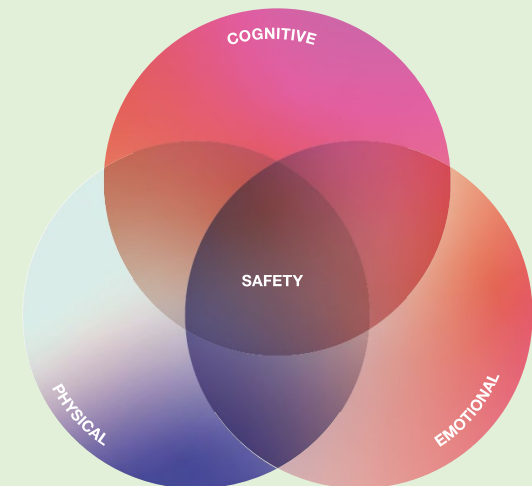
ウェルビーイングを達成する為には、**身体的・情緒的及び認知的**に健康が担保されなければいけません。
安全性とはこの3つの上に成り立っています。
それゆえ企業は以下の事を考えて行動を起こさなければいけません。

身体的：オフィスにいる間中、健康的でかつ疾患し辛い環境で働ける事。

情緒的：集中力や生産性を絶やさない為、従業員は個人的な恐れを感じない環境で働ける事。

認知的：誰しものが働いているときは安全に感じたいものです。

創造性を働かせて最良の安全性を確保したオフィスが必要です。
よりリスクを伴う仕事に従事している方は特に必須です。



2.最初のステージに求められる要素は： オフィスの混雑状況の把握/ 家具の設置箇所の再考/ 従業員同士を分割するバリア

仕事を再始動する上で、多くの企業は徐々に従業員をオフィスに戻すということが必要になってきます。手始めに半分程度、そして感染予防について常識的な方法でオフィスを改造する必要があります。

その具体的政策とは：

過密を軽減する：

お互いの距離を保つ為、チェアを減らしたりオフィスエリアを分割したりして、少なくとも2M以上離れる事。
共有スペースに関しては、前や横に人が来ないように市松模様の席を削減する事。

設置場所の再考：

デスクの位置を通常の並べ方から変えていく。
バリア無しであればスタンディングハイトのデスクを加え、面と向かった位置関係を排除、また向きを90度変える事も有効。

スクリーンの設置：

特に上記した2Mを確保出来ない場合は必須です。
前、横、そして後方 - より高く、広く、そしてクリーニングし易いものが適しています。

ホテリング：

過去のように数名が使い回すのではなく、1日につき1名が使うというルールにする。また使用前後に消毒を必ず行うという条件も必須です。

付属的なスペース：

ソファの様な家具で、十分な距離が保てない場合はシングルユースと割り切る、ラウンジ形状に関しては撤去してしまうか2M以上離して使う。
テーブルや照明は、使う前と後に、専門の清掃係りだけでなく従業員の手で除菌される事が必要です。

在宅勤務：

オフィスに戻って働くにしても、密度を下げるためにシフト制にしたり徐々に段階を経て戻すにしても、相変わらず在宅勤務を継続する人は発生します。かれらの健康を保つ為、適した家具や照明その他が必要になってきます。

視覚的指標：

テーブル等を使い、具体的な距離感を社員同士がわかる様にしましょう。
狭い廊下や踊り場などでは、床にサインを張るなどして一方通行にするなどして人の移動方向をマネジメントしましょう。

少人数ミーティング：

個室でミーティングを行う際の人数を制限するルールを作りましょう。
壁にその指標を書くなどして、周知徹底しましょう。
また、その他の集いもルールに則り、部屋の仕様も距離が保てる工夫をしましょう。

こまめな消毒を視覚的にわかる様に：

視覚的にわかる様に、消毒行為を行いましょう、結果従業員が日に数回消毒が施されているという事を理解出来るようにします。
また、消毒用のツールをどこでも誰でも使える様に準備し、共用スペースを使う前後に消毒をする様促しましょう、かつ消毒台を設置して個人でも積極的に消毒をさせる事も有効です。

マスク着用の習慣化：

多くの国々において、風邪が流行る時期にはマスクの着用が社会的な常識となっています。
科学的な根拠からも、会話時の飛沫が相当な距離飛んでしまう事がわかっており、会議やオフィスで話す時もマスク着用が当たり前になってきています。
従業員にマスクを提供し、しかるべき時には着用するよう促しましょう。

3. デザイン考察とヒント 一つ確実な事があります：スペース構築の方法は、これからは大きく変わります。

今もしくは近々行えるオフィスの改造に関して、キーワードとなる指標：

密度：人々の密集具合

幾何学：どのような家具設置を行うか

分割：スクリーン、パネル及びバリアの活用

新たな安全基準の基、従業員がそれを理解して職場に戻れるようこれらの要素をうまく取り混ぜてスペースを作る必要があります。未来を見据え、次に繋がるスペースを広範囲にわたって作りたいと各組織は考えています。



最低限の距離を確保

オフィス全ての場所において最低限の距離、2Mを保てる場所を作る事。



デスク間の距離確保

相互に距離を保てるよう再配置。



オープンエリアの活用

5名以上の会議の場合は、可動式のホワイトボードやその他の家具を駆使して他のエリアとの境目を作りつつオープンエリアにて行う。



セパレーションを追加

スクリーン、収納、植物やパーティションを使って分割する。



シェアードスペースの削減

個人で所有するスペースを増やす。



可動式スクリーン

従業員自身で移動可能なスクリーン設置を行う。



家具の再配置

正面に向かないよう、例えば90度に角度を変える等の工夫を行う。



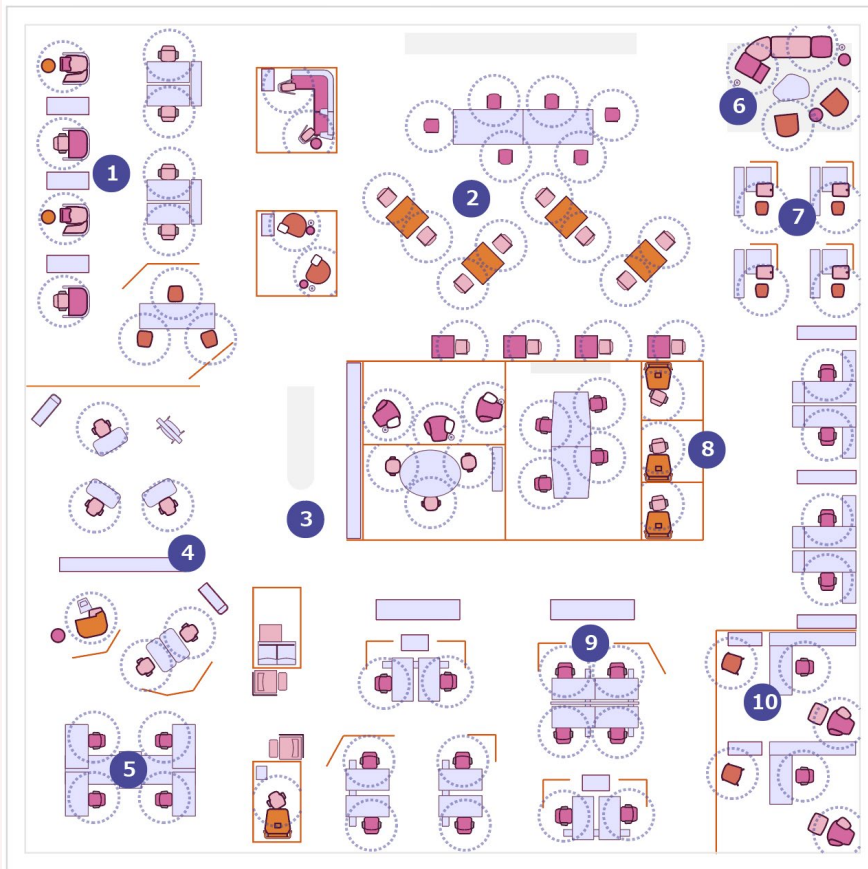
高さ方向への配慮

最低限の距離感である2Mを保てない場合は他者との境目に高いスクリーン等を設置。

4.フロアプランに関する考察

従業員を迎え入れる準備としてのキーワードは、**密度**、**幾何学**そして**分割**です。

Floor Plan



1. 高いスクリーン等を用い、自然に距離を保ち、精神的に安心出来るスペース作り
2. カフェエリアは家具を間引いて安全な距離感で使えるように調整
3. 消毒用のツールを置いておく場所を確保
4. 可動式のスクリーンでチームのエリアを確保
5. デスクの設置箇所をアレンジし、対面しないように工夫
6. 安全な距離を保てるよう、ラウンジスペースは個人使用を前提とする
7. 個々のデスクは最低限2M離す、またスクリーン等の追加も有効
8. 会議システム等の導入により、遠方とのコラボレーション促進と同時にオフィスの在席率を軽減
9. 可動式スクリーンで個人のスペースを確保
10. ゲスト用のチェアを減らし、個室内で距離をしっかりと確保することを周知徹底させる

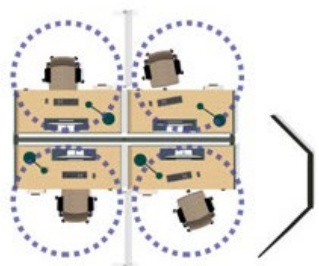
1: 現在



5. デザイン戦略 上下昇降デスク及びベンチ

新しい健康上の要件及び安全性に適し、かつ進歩的な方法です。

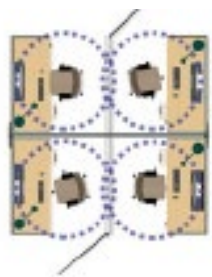
2: 改造



分割：

- ・60センチ程度の高さのスクリーンを各昇降デスクごとに設置
- ・可動式の1,800/1,200程度の高さのスクリーンでチームスペースを確保
- ・1,700程度のスクリーンで個人間にセパレーションを設置

3: 入れ替え



密度：

- ・ハイ人当たりの占有平米数を増やす。

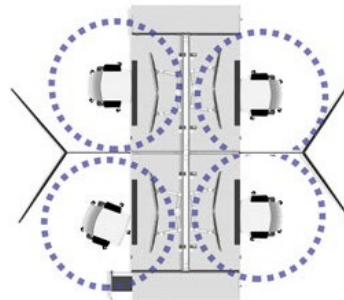
幾何学：

- ・デスクの向きを90度変えて対面しないようにする。

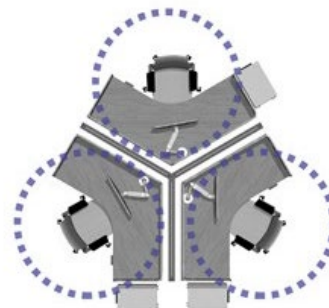
分割：

- ・60センチ程度の高さのスクリーンを各昇降デスクごとに設置ロッカーで仕切ったり、個人用の収納を設置して清掃用グッズを格納させる可動式の1,800/1,200程度の高さのスクリーンで個人スペースを確保

ヒント 上下昇降デスクとベンチ

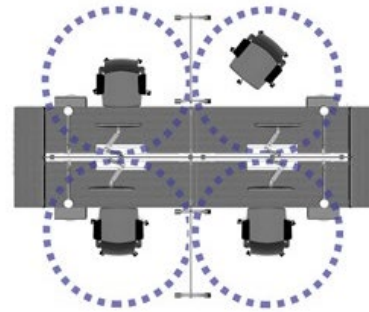


- 60センチ程度の高さのスクリーンを各昇降デスクごとに設置
- 可動式の1,800/1,200程度の高さのスクリーンで個人スペースを確保
- 可動式収納もスクリーンとして使用

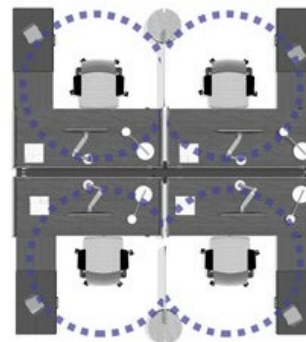


- 60センチ程度の高さのスクリーンを各昇降デスクごとに設置
- 120° の角度を保つことにより、対面することを避ける

ヒント 上下昇降デスクとベンチ



- 60センチ程度の高さのスクリーンを各昇降デスクごとに設置
- 1,400程度の可動式ホワイトボードをスクリーンとして活用



- 60センチ程度の高さのスクリーンを各昇降デスクごとに設置
- 1,800程度の高さのマーカーボードをスクリーンとして活用

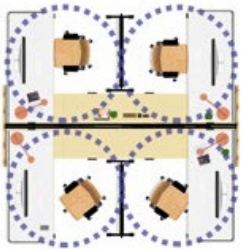
1: 現在



5. デザイン戦略 パネル付きデスク

コロナ以降の新しい健康や安全基準に対して、いかに前向きに現状の家具を改造するか

2: 改造



密度：

・一人当たりの占有平米数を増やす。

幾何学：

・デスクの向きを90度変えて対面しないようにする

分割：

・700程度のスクリーンを上下昇降デスクに設置
・1,700程度のガラス付きスクリーンを設置

3: 入れ替え



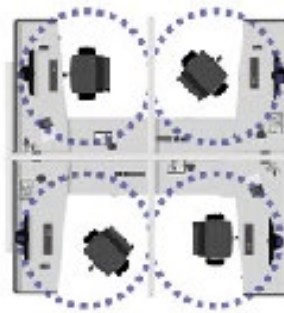
密度：

・一人当たりの占有平米数を増やす。

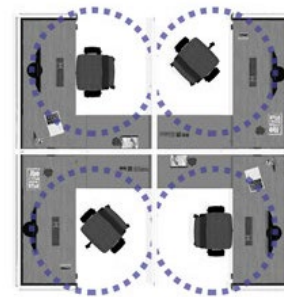
分割：

・1,700程度のガラス付きスクリーンを設置

ヒント パネル付きデスク

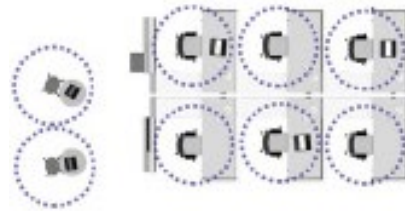


- 700 程度のスクリーンを設置
- 1,700程度のガラス付きスクリーン設置
- デスクの向きを調整し、対面しないようにする

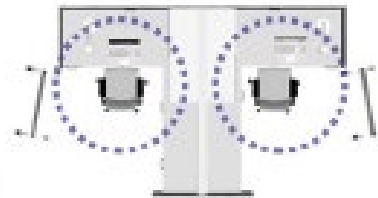


- 1,700程度のガラス付きスクリーン設置
- デスクの向きを調整し、対面しないようにする

ヒント パネル付きデスク



- 1,700/1,400程度のパネルと300程度のガラスパネルのコンビネーション
- デスク向きを工夫し、対面しないように



- 1,400程度のパネルでデスクを取り囲む
- デスク向きを工夫し、対面しないように

1: 現在



5. デザイン戦略 付属的スペース

コロナ以降の新しい健康や安全基準に対して、いかに前向きに現状の家具を改造するか

2: 改造



密度：

・複数名で使うラウンジ用家具は個々で使えるよう分割、密度を下げる

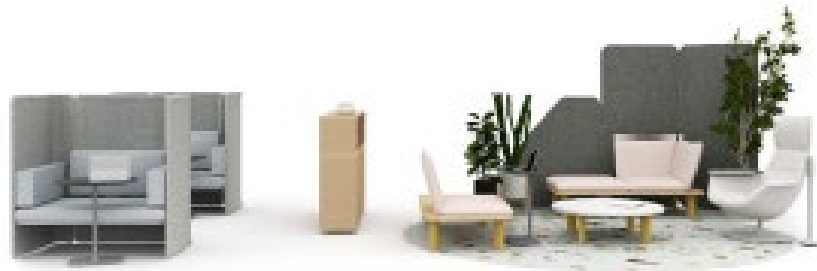
幾何学：

・家具の設置方向を考慮し、対面しないようにする

分割：

・スクリーンを用いてシールドを増やす
・収納家具をスクリーンとして使用、かつ清掃用グッズを格納する

3: 入れ替え



密度：

・複数名で使うラウンジ用家具は個々で使えるよう分割、密度を下げる

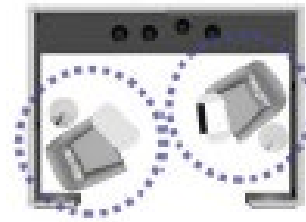
幾何学：

・家具の設置方向を考慮し、対面しないようにする

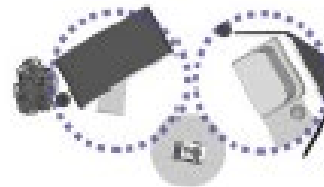
分割：

・個人使用の家具を設置ラウンジ間に収納を設置して距離を離す

ヒント 付属的空間



- 高いスクリーンを活用
- 家具同士の距離を離して設置
- 収納を設置して清掃用グッズを収納



- 囲まれている家具を使う
- 可動式スクリーンで区分け
- 家具同士の距離を離す

ヒント 付属的スペース



- 囲われた形状の家具を使用
- 家具同士の距離を離す



- 家具同士の距離を離して設置
- 収納を設置して清掃用グッズを収納
- 完全に囲まれた形状の家具を使用

Steelcase®
AUTHORIZED DEALER



KUROGANE

株式会社くろがね工作所
www.kurogane-kks.co.jp

お問い合わせは各営業所までお願いします。

- 東 京 〒105-0014 東京都港区芝1-10-13 芝日景有楽ビル
TEL. 03-5439-9111 / FAX. 03-5439-9115
- 札 幌 〒060-0001 札幌市中央区北一条西7丁目3 (北一条第一生命ビルディング)
TEL. 011-281-2373 / FAX. 011-281-2367
- 名古屋 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦3丁目20-27 (御幸ビル)
TEL. 052-253-6985 / FAX. 052-253-6986
- 大 阪 〒550-0013 大阪市西区新町1丁目4-24 (大阪四ツ橋新町ビル)
TEL. 06-6538-1012 / FAX. 06-6538-7434
- 高 松 〒760-0007 香川県高松市中央町1-5 (MBSビル)
TEL. 087-835-6311 / FAX. 087-835-6312
- 広 島 〒733-0001 広島市西区大芝3-13-5 (イトービル3)
TEL. 082-962-1462 / FAX. 082-962-4662
- 山 口 〒753-0074 山口市中央5-15-20 (オデオンK)
TEL. 083-928-6115 / FAX. 083-928-6108
- 福 岡 〒810-0012 福岡市中央区白金1丁目2-21 (Wビルディング渡辺通)
TEL. 092-523-1440 / FAX. 092-523-1442